

多く飲むと健康リスクが高まることが判っているにも拘らず、学校給食に出される理由は、牛乳の需要を拡大するため。

子どもたちのことを考えた結果ではない。

<牛乳の副作用>

カルシウムやリンに対してマグネシウムが少ない。丈夫な骨は作られない。他のミネラルの吸収が抑制される。

女性ホルモンが高濃度に含まれている。男女とも、体内の性ホルモン比率が変化して性成長に異常をきたす。ホルモンバランスの乱れによって他の疾患にも罹りやすくなる。

各種の細胞増殖因子が高濃度に含まれている。将来における発がんリスクが高まる。

α-カゼインの含有量が多い。
中間分解産物がアレルギーや炎症を助長する。消化不良を起こす。

乳糖が多い。
下痢や消化不良を起こす。

ω3系の脂肪酸の比率が小さい。
各種のアレルギーや炎症が増加する。

飽和脂肪酸の比率が高い。
心血管系疾患のリスクが高まる。

食物繊維が含まれていない。
腸内細菌叢が悪化する。

抗生物質、農薬、重金属、その他の環境汚染物質の濃度が高めである。

子どもの健全な成長が妨げられる。将来的に種々疾患リスクが高まる。

本来は牛の赤ちゃんが飲むものである。
ヒトの子どもが飲んだ場合、その不自然さゆえに、まだまだ明らかにされていない弊害が生じる可能性がある。

学校給食用に安定的かつ効率的に供給すること等により、生乳需要の維持・拡大を図ります。

○持続的生産強化対策事業のうち

国産牛乳乳製品需要・消費拡大対策

【令和6年度予算概算決定額 560(560)百万円】

<対策のポイント>

安全で品質の高い国産牛乳を学校給食用に安定的かつ効率的に供給すること等により、生乳需要の維持・拡大を図ります。

<政策目標>

- 牛乳乳製品の消費量の増加 [令和12年度生乳換算1,302万トン]
- 牛乳乳製品の輸出環境の整備 (720億円 [令和12年まで])

<事業の内容>

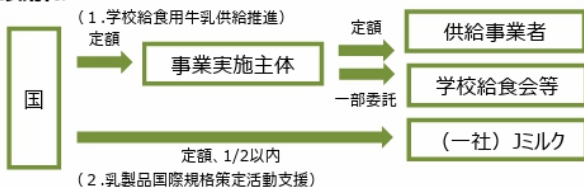
1. 学校給食用牛乳供給推進 550 (550) 百万円

- ① 学校給食用牛乳の安定的・効率的な供給等を推進するため、学校給食用牛乳供給推進会議を開催し、事業実施計画の策定、配送の効率化に向けた取組、必要な調査等の実施を支援します。
- ② 遠隔地、離島など供給条件が不利な地域での学校給食用牛乳の利用を支援します。
- ③ 小中学校等の学校給食への新規の牛乳供給を支援します。

2. 乳製品国際規格策定活動支援 10 (10) 百万円

- 生乳需給の安定を図るとともに、乳製品の需要拡大を図るため、乳製品国際規格に我が国の意見を反映させるための活動を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 学校給食用牛乳供給推進



学校給食用牛乳供給円滑化推進

- 実施計画の策定
- 関係者の理解醸成活動
- 配送効率化に向けた取組 (隔日配送等) 等の実施を支援



学校給食用牛乳安定需要確保対策

遠隔地、離島など供給条件が不利な地域 (地域振興8法に基づく指定地域) を対象に輸送費等のかかりまし経費の一部を支援



学校給食用牛乳新規利用推進

学校給食への新規の牛乳供給に奨励金を交付 (初年度限り)

2. 乳製品国際規格策定活動支援



乳製品国際規格に我が国の意見を反映させるための活動 (我が国意見の取りまとめ、国際会合の出席等) を支援